

第121回 有田国際陶磁展
産業陶磁器部門 審査評

審査長 井戸真伸

昨年度に続き有田国際陶磁展に関わらせていただき、まずは感謝申し上げます。微力ではございますが、こうしてやきものに触れ、応援させていただけることは大変光栄なことです。

本年の産業陶磁器部門の出品数は前回と比較すると微減となりましたが、俯瞰して見ると、社会の動向、端的に申し上げればモノ志向からコト志向という、人々の関心の移ろいを反映しているのかもしれませんが。それは陶磁器に限らず、あらゆる物質的「モノ」が人々の欲から反れ、違う何かに向かっているということですが、それらのスピードはとてつもなく速く、捕らえるのは容易ではありません。それでも社会は確実にその「何か」に向かっており、このような社会において、長い歴史を持った陶磁器産業、ひいてはやきものに限らない地場産業全体がどうあるべきか、今一度立ち止まる勇気を持ち、議論する必要があると感じています。

さて、本題の審査に話を移しますが、本年度の審査員はそれぞれのバックボーンが全く違い、異なった視点で作品を見られたところが大変良かったと思います。共に審査に当たってくださったお二方に、この場を借りて感謝申し上げます。

投票によって絞られた受賞対象作品から、まずは経済産業大臣賞の選考をすることとなりましたが、今度は単なる投票ではなく、議論と実用実験を加えて選出し、結果、ミニマルに仕立てられた力作「急須とりどり」に決定いたしました。本作は異なる6点からなる急須ですが、注器の最大の使命である水の「キレ」がどこまであるか、実際に水を入れて実験させていただきました。注ぎ口の先端などを観察すると、そういった機能的側面にも気が配られていたことから、私の個人的な興味でもありました。実際にその切れ味はとても良く、また、内部の茶漉しの繊細さや蓋の嵌合具合など、伝統的かつミニマムな造形に加えて、機能的な側面に立脚したデザインも評価を押し上げたと思います。一点今後の参考としていただきたいことは、ビスク仕上げが端正に映る反面、どうしても長年の蓄積汚れにつながるだろうことが想像されることです。これを善とするか否かは視点によって変わりますが、仕上げ方法など、更なるブラッシュアップを期待いたします。

そして前年に続き、またしても1位を競ったのは同じ作家による精緻ないっちゃん作品です。「月の宴」と題された本作家によるいっちゃんの小作品は、見て触りたくなり、実に愛おしさを感じさせます。非常に完成度も高く、今年も1位を競いましたが、少し残念に思ったことは、いっちゃんのパターン等が前作と同様だったことです。コンペティションは「新鮮さ」も大事ですから、新たな挑戦の期待も込めて第2位となる「佐賀県知事賞」とさせていただきます。

最後に取り上げておきたいのは、とても新鮮な提案のあった花器「虫と仲良くなる花瓶」です。本作は磁力によって「虫」を花瓶に装飾できるという、未知の可能性を感じた意欲作です。おそらく実験を繰り返し、試行錯誤を重ねたと察します。未知だけに完成度が十分でなかった点が足を引っ張ったものの、新しい挑戦と提案を感じさせる作品だと思いました。作家のバックボーンが日本ではない点が「昆虫」にフィーチャーさせている所以だと思いますが、その昆虫も新鮮さにつながっていたと思います。やきものに対して自由にやきものを加飾するというコンセプトは、とても可能性を感じますから、是非改善を重ね、更なる「自由さ」を求めていって欲しいという期待を込めて、有田焼卸団地協同組合賞とさせていただきます。

今回の審査を通してとても良かったことは、上記作品のように「挑戦」と「提案」が見られたことです。デザインの役割はとて多岐に渡りますから、この場で簡単には申し上げられませんが、コンペティションにおいて大切なことの一つは、こういった「挑戦」や「提案」だと思います。商品として魅力的であり、売れていくことはもちろん重要ですが、コンペティションはそういったことを越えて、世の中に何を見せてくれるかという期待ですから、今後とも多いに楽しみにしております。

審査員名簿

産業陶磁器部門

(50音順・敬称略)

| 氏 名 | 所 属 | 備 考 |
|--------------------------|---|---|
| <p>イド マサノブ 井戸 真伸</p> | <p>愛知教育大学教育学部 美術教育講座 教授</p> | <p>東京都生まれ。 2009年よりヘルシンキ芸術デザイン大学客員教授、アラビア・アートデパートメント客員アーティストを務め、両ポストを行き来しながら、「人」「生活」「デザイン」についての関わりと研究を深める。 近年はデザイン、アート、エンジニアリングなど、カテゴライズされた概念に捕らわれない創造的活動を、特にこれらがまじり合った曖昧な箇所に注目しながら渡る試みに奮闘している。 国内外にて作品展示、收藏、受賞多数。 2021年Center of Contemporary Artists(Italy)世界Top10に選出。</p> |
| <p>アザイトシユキ 浅井 俊行</p> | <p>株式会社朝日堂 代表取締役社長 株式会社田窯 代表取締役</p> | <p>京都府出身。 大阪産業大学を卒業後、2003年に大塚家具へ入社。 2006年株式会社グレープストーンへ入社。 2008年株式会社朝日堂へ入社。 2010年同社の代表取締役社長に就任。 2020年より浅草かっぱ橋道具街で営業する「和の器 田窯」の代表取締役も務める。</p> |
| <p>イマイ アキコ 今井 朗子</p> | <p>株式会社世界文化ホールディングス 執行役員 兼 社長戦略本部社長室 担当</p> | <p>東京都出身。 2004年より2009年まで『家庭画報』編集長をつとめる。 2023年3月より現職。 2017年より全国漆器協会主催「全国漆器展美術工芸品部門」の審査員をつとめる。 2022年、2023年「有田国際陶磁展」産業陶磁器部門の審査員をつとめる。 (世界文化社:1945年創業。『家庭画報』など雑誌・書籍を刊行する出版社。2025年に80周年を迎える。紙の出版だけにとどまらず、新しいサービスを提供するコンテンツホルダー。)</p> |